



労働生産性を上げて地方を元気に

公益社団法人仙台中法人会会長 相澤 博彦

青葉の季節の6月の10日と11日、仙台市中心部の西公園や一番町、定禅寺通りで「東北絆祭り」が開催されました。大震災の年に始まった東北六魂祭が昨年東北6県を一巡し、更なる復興と未来に向けて前進するためスタートした新たな祭りです。この祭りには宮城県内、東北はもちろん全国から約45万人の来場者があり、元気を沢山いただいたことに地元として大変感謝しております。

さて、この賑やかなお祭りのパレードを見ておきますと、来年以降も各地で大勢の人が集って欲しいものです。もちろん全国から来ていただきたいですが、地元人がいてこそのお祭りです。あまり聞かなくなりましたが、地方創生の大きな課題の一つは、少子化と人口減少でした。しかし、なかなか傾向は変えられず、さらに人口の都市部集中が続いており地方は減少の一途です。このパレードの人波が毎年各地で見られることを期待してやみません。

地方の人口減少という課題には、若者が住み結婚し子供を育てるまちをつくること、東京等の大都市集中を是正することが必要です。そのためには、地方に働きたい仕事があり生活できる収入を得ることが大事です。ところが、長期間デフレで地方に仕事がありませんでした。次に復興のため様々な仕事は生まれましたがいずれ無くなるでしょう。一方、首都圏では景気浮揚やオリンピックの準備、都市再開発で人手不足になって地方から若者の流出は止められません。

解決策の一つは、労働生産性の向上だと思います。最近、日本の労働生産性に関する記事を目にしました。2015年の労働生産性の国際比較が公表され、日本の時間当たり労働生産性はOECD加盟の35か国中20位で、G7では最下位とのことです（日本生産性本部より）。特に、G7最上位である米国と比べると、日本の製造業は69.7%、サービス業は49.9%にしかありません。この意味するところですが、労働生産性とは「就業者1人の1時間当たりのGDP」の値で、この数字が低いことは米国の就業者ほど効率よく稼げていないということです。この低い要因の一つは、日本の製品・サービスが『過剰な品質・おもてなし』になっていることだとも言われています。それらはコストですので、逆に考えるとこの過剰を国際的に勝負できる範囲内で下げることで、労働生産性はまだ上げられるということです。結果、人口の減少する地方で人手不足だが首都圏ほど高くない就業者の収入水準も上げることができます。さらに、従来の仕事の効率化の枠組みを超え、第4次産業革命でAIやロボットの開発・活用を進めることで、人は人間にしかできない仕事を行うことで労働生産性も向上します。日本全体で豊かさを向上できるでしょう。

国や地方が一体となってこの労働生産性を上げる施策を行い、地方が元気になることを期待しています。

(当財団 理事)